

平成27・28年度  
鹿児島県租税教育研究会  
租 税 教 育 の 実 際



平成28年11月25日(金)

屋久島町立中央中学校

## 目次

### I はじめに

- 1 屋久島町の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 本校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

### II 研究の概要

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 2 研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 3 研究の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 4 研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

### III 研究の実際

- 1 租税教室前の税に関するアンケート実施・・・・・・・・3
- 2 アンケート結果の考察・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 3 租税教室の実施・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 4 租税教室後の税に関するアンケート実施・・・・・・・・12
- 5 アンケート結果の考察・・・・・・・・・・・・・・・・13
- 6 各教科での取組・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 7 生徒の作品・・・・・・・・・・・・・・・・17

### IV 研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・19

## I はじめに

### 1 屋久島町の概要

位置は、鹿児島市の南方約 135km, 県本土の南方約 60kmの海上にあり、屋久島とその西北西約 12kmにある口永良部島の2島からなっている。総面積は 540.48km<sup>2</sup>で、内 93%を占める屋久島は周囲 132kmの円形の島で九州最高峰の宮之浦岳(1,936m)を筆頭に、標高 1,000 m以上の山が45座以上あり、多くを山岳部分で占められていることから、洋上アルプスと呼ばれています。このため傾斜地が多く平坦地が乏しく、一圃場当たりの区画面積が狭い島です。1993(平成5)年には、樹齢数千年の屋久杉をはじめとする特殊な森林植生や、亜熱帯から冷温帯に及ぶ植生の垂直分布など、屋久島の貴重な自然環境・自然資源が世界的な評価を受け、我が国で最初の世界自然遺産に登録された。

口永良部島は、長径 12km, 最大幅 5kmの美しい緑の火山島で、今なお噴煙をたなびかせる新岳(標高 626m)がそびえ、島の海岸周辺の随所には良質な温泉が湧き出しています。また島の面積の3割以上を竹林が占め、比較的傾斜の緩やかな地域は天然の牧野の役割を果たしています。

気象は多量な雨が特徴的で、年間平均降水量は平地で約 4,500mm(山間部は 8,000～10,000mm)と、日本の年間平均降水量の2倍をはるかに超える量で、その半分近くが5月から8月に集中している。気温は、亜熱帯に位置しているため、平地では年間平均気温約20度と温暖であるが、屋久島においては その標高差により亜熱帯から冷温帯の植生分布がみられる特異性から、山岳部では、冬季には積雪もみられる。(屋久島町 HP より)

### 2 学校の概要

本校区は、屋久島の北部全体に位置しており、校区内には海の拠点としての宮之浦港と空の拠点としての屋久島空港があり、島内外の交通の要衝として人や物資の往来が盛んである。また、太古からの自然が永きに渡って引き継がれ、自然と共に共存する姿や産業も色濃く残っている。特に、屋久島が世界自然遺産に登録された1993(平成5)年以降は、県内外・国内外を問わず観光客等の来島者が急増している。また、世界遺産登録以後、環境保全・自然保護の気運も一段と高まり、地域を挙げての取組がなされている。さらに、営林署などの官公署及びNTTや屋久島電工等の企業も有り、屋久島の政治・経済・文化の中心地となっている。校区民は、教育に対する関心が高く、PTA活動はもとより、学校・地域の諸教育活動に協力的で、またこれらの活動に期待を寄せている。

## II 研究の概要

### 1 研究主題

租税教育を通して、税に関する興味・関心を高めるとともに、正しい知識や理解を深め、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成する。

### 2 研究主題設定の理由

租税教育の目指すものは「平和的な国家及び社会の形成者としての資質を養い、生徒を取り巻く身近な事象を捉えてこれを民主的な観点に立って深く考え、更に望ましい実践的な態度や習慣を身につけさせていく」ことである。また、鹿児島県における租税教育は「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる」ことにねらいを置いている。

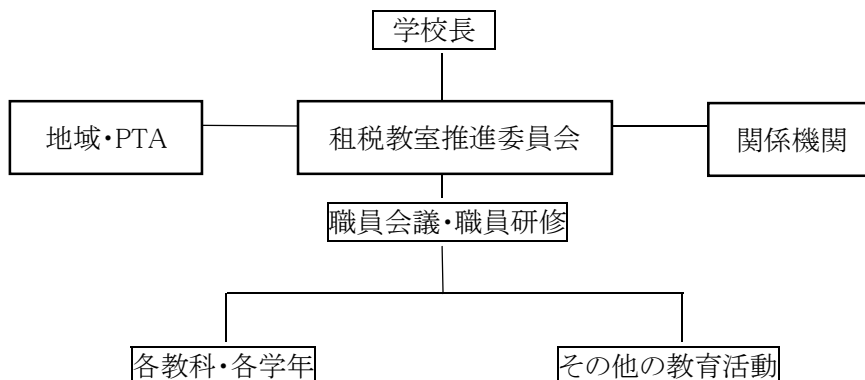
つまり、将来の納税者としてわが国を担う児童・生徒が、税についての関心を高め、税の意義や役割を正しく認識することが極めて重要なこととなる。実際、現代の子どもたちは消費税という税の制度によってわれわれ大人世代よりもより身近に税に触れている。しかし、税に対する関心は低く、そのしくみや、用途などについては、全くと言っていいほど理解できていないのが現状である。

そこで以上のことや本校の生徒の実態から、租税教育を通して生徒の税に関する興味・関心を高めるとともに、家庭や地域と連携を図りながら、正しい知識や理解を深め、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成することができるように本主題を設定した。

### 3 研究の目標

- (1) 租税に関する興味・関心を高める。
- (2) 税金の使い道について正しく理解する。
- (3) 共によりよく生きる集団生活の向上を目指し、郷土愛の高揚を図る。

### 4 研究組織



### Ⅲ 研究の実際

#### 1 租税教室前の税に関するアンケート実施

(1) 税金の働きについて、知っていることはありますか。

	ある	ない
1年	33人(約64%)	19人(約36%)
2年	28人(約50%)	29人(約50%)
3年	44人(約72%)	17人(約28%)
計	105人(約62%)	65人(約38%)

(2) 知っていることはどんなことですか。

1年

- ・ いろいろな公共事業に使われる
- ・ 国のために使われるお金
- ・ 国民がはらうお金
- ・ 橋, 道路・学校などをつくる働き
- ・ 火事などの時に消防士が働いてくれる
- ・ 公務員の給料になる
- ・ 教科書などに使っている
- ・ 私たちの役に立っている
- ・ 働いていて, かせいだ分だけ国に払う
- ・ 警察署など
- ・ 税金で建てられている建物などがある
- ・ 税がなければ, ゴミがたまったり消防が出なくなったりする

2年

- ・ お年寄りの年金などに使われる
- ・ 物を買った時に払うお金
- ・ 国民が国に払うお金
- ・ 義務教育時の教科書は税金でまかなわれている
- ・ いろいろな税があること
- ・ 国や町に納められていること
- ・ 公務員の給料になる
- ・ みんなのために使われる施設などを作るために使われる
- ・ 介護施設や老人ホームなどの寄付金
- ・ あること

- ・ 消費税が5%→8%→10%になること
- ・ 消費税を買い物のときに払うこと
- ・ 災害などがあった時のために使うお金
- ・ 年金や国家予算の一部になる

### 3年

- ・ 病院などの大事な建物を建てるために使われる
- ・ 学校の机などに使われている
- ・ 公務員の給料
- ・ 高齢者や障害者への援助
- ・ 国の代表選挙に使われる
- ・ 国が何か事業をする時に使う
- ・ 国のために税金を集めている
- ・ 税金でお金のない人にお金を援助している
- ・ 国や県などのお金として使用される
- ・ 学校のものや、みんなに配られる教科書
- ・ 消防署
- ・ 警察署
- ・ 公共のものや場

(3) 税について、どんなイメージをもっていますか。

### 1年

- ・ お金
- ・ 募金してみんなのために使うお金
- ・ 商品についてくるおまけのお金みたいなもの
- ・ 私たちがよりよく暮らすためだけ高い。〇〇議員のように悪く使われそう
- ・ お金がかかるので嫌です
- ・ どんどん高くなってきている(複数)
- ・ よく分からないものが多い
- ・ はらわないといけないもの
- ・ 国民のために役立つもの
- ・ 国民の全員が税金を払って国をつくりあげる
- ・ 日本のために必要なもの
- ・ 優しい
- ・ はらうのが面倒くさい
- ・ 人によっては悪く使う
- ・ こわい

- ・ えらい人が持っている
- ・ 社会に必要なお金
- ・ 意味がわからないこと
- ・ お金をぼったくる
- ・ お父さん, お母さんが出しているお金
- ・ 国が何かに使っているお金
- ・ 自分のお金を使われる
- ・ 払うのが面倒くさい
- ・ 人によっては悪く使う
- ・ お金を取る組織

## 2年

- ・ 国民が決められた税を払う
- ・ 政治に使われる
- ・ わいろ
- ・ みんなのために使われる
- ・ 国にとって大事なもの
- ・ 公共の場を作るのに必要なお金
- ・ 暮らしに役立つ
- ・ だんだん高くなっている
- ・ 2%ずつ上がっている
- ・ 消費税以外はあまり自分には関係ない
- ・ わからない
- ・ お金
- ・ 特にない
- ・ 消費税が少しずつ上がっている
- ・ みんなが納めるもの
- ・ お金を多くとられるイメージ
- ・ あまりいい感じには思わない
- ・ 無駄遣いされている
- ・ よいイメージ
- ・ かけがえのない存在
- ・ 国の経済を安定させるために払わないといけない
- ・ 本当に必要なことに税金が使われているか心配
- ・ 定価についているお金
- ・ 働いている人は必ずはらわなければならない

- ・ あまり好まれていない
- ・ 物を買ったときにはらうもの

### 3年

- ・ とても大事
- ・ あまりはらいたくない
- ・ 国民から得たお金
- ・ 無駄にお金を使わないといけないからいやだ
- ・ 公務員の給料は税金
- ・ なくてはならないもの
- ・ 物を買うときにあまり高くつかないでほしい
- ・ 消費税が上がっていき続けるイメージ
- ・ 難しい
- ・ よくわからない
- ・ 昔はいらなと思っていたが、今は私たちのためにも役立っているすばらしいイメージ
- ・ 国のために使うお金
- ・ 税があると苦しむ人もいて、でも楽する人もいる
- ・ 特に何も無い
- ・ あまり関わっていない
- ・ 全国の人ががんばって働いたお金
- ・ 意味不明なお金
- ・ なぜ、会議で眠っている人たちのためにお金をはらわないといけないのか
- ・ 物の値段が上がる
- ・ 細かなお釣りが必要
- ・ えらい人が税金で旅行に行っていていやだ
- ・ 募金に出したらいい
- ・ 仕組みが難しい
- ・ 国会の人が無駄遣いをしている(オリンピックのエンブレムとか)
- ・ 買う品物についてくるもの
- ・ 国民が税によって苦しむ
- ・ 税が上下することで、すぐにニュースに取り上げられている

(4) どんな税がありますか。

### 1年

- ・ 消費税
- ・ 所得税
- ・ わからない
- ・ 納税
- ・ 価格税



- ・ 自動車税 ・ 国民健康保険税 ・ 酒税 ・ たばこ税
- ・ 固定資産税 ・ 相続税 ・ 住民税 ・ 国税 ・ 輸出税
- ・ 輸入税 ・ 半額 ・ 法人税 ・ ふつうの税

2年

- ・ 消費税 ・ 住民税 ・ 地税 ・ 所得税 ・ 固定資産税
- ・ 納税 ・ 自動車税 ・ こうみん税 ・ わからない
- ・ 法人税 ・ 地域税 ・ 関税 ・ 地方税

3年

- ・ 消費税 ・ 所得税 ・ 固定資産税 ・ 自動車税 ・ 住民税
- ・ 国民税 ・ わからない ・ 印税 ・ ふるさと納税 ・ 納税
- ・ 国税 ・ 住んでいる土地にかかる税 ・ 車税

(5) 消費税は知っていますか。

	知っている	知らない
1年	46人(約88%)	6人(約12%)
2年	55人(約97%)	2人(約3%)
3年	57人(約94%)	4人(約6%)
計	158人(約93%)	12人(約7%)

(6) 消費税は現在何%か知っていますか。

	8%	その他
1年	49人(約79%)	無回答(4), 知らない(1), 60%(2), 40%(1), 10%(3), 181%(1), 18%(1)
2年	55人(約97%)	無回答(1), 10%(1)
3年	45人(約74%)	5%(1), 18%(1), 無回答(2), 0.8%(1), 10%(4), 8~10%(1), 7%(1), 15%(1), 30%(2), 58%(1), 90%(1)
計	158人(約93%)	

(7) 税について知りたいことを書いてください。

1年

- ・ 税はどんな働きをしているのか
- ・ 税は何のためにあるのか
- ・ 税はこの国に必要なのか

- ・ 税は買うとき以外にどこからきているのか
- ・ 国民の税金でどのような建物を建てているのか
- ・ 税金をどのようにして回収しているのか
- ・ 消費税が現在何%か
- ・ 消費税以外の税に関することや、税の種類を知りたい
- ・ いろいろなこと
- ・ 学校等を作るときに税金はいくらかかるのか
- ・ 税金はなぜ上がっているのか
- ・ こらから消費税は何%まで上がるのか
- ・ 消費税はなぜ高くなっていくのか
- ・ 消費税は何のためにあるのか
- ・ なぜ税金が必要なのか
- ・ 税金が上がったあと、自分たちにいいことがあるのか
- ・ 税金を誰が決めているのか
- ・ 特になし
- ・ 税を始めたのは誰なのか
- ・ 何も知らないので、知らないことを知りたい

## 2年

- ・ 税金は上がるのか
- ・ 特になし
- ・ 税はいつから始まったのか
- ・ 消費税がだんだんあがるのはなぜか
- ・ 税は何に使われているのか
- ・ いろいろ知りたい
- ・ 消費税は何%まで上がるのか
- ・ なぜ税金を納めないといけないのか
- ・ どうやって国に届けられるのか
- ・ 税金は私たちにとって得するものなのか、損するものなのか
- ・ 税についてぼくたちは何をすればいいのか
- ・ 税は悪用される心配はないのか
- ・ 税にはどんな役割があるのか
- ・ 税の仕組みはどうなっているのか

## 3年

- ・ 税の種類

- ・ 税金の集め方
- ・ 市民の言っていることも聞いているのか
- ・ なぜどんどん上がるのか
- ・ 税は何に使われているのか
- ・ 税によって得られるいいこと
- ・ 税のよいところ
- ・ 税をいっぱい集めているのに、屋久島の子どもたちが望んでいる施設が建たない理由
- ・ 消費税とは何か
- ・ 税を値段につける必要はあるのか
- ・ 税金はどこに納められているのか
- ・ なぜえらい人は税金を勝手に使えるのか
- ・ 消費税はどんどん上がるのか
- ・ 国民全員の全ての税金を合わせると年間でどのくらいの金額になるか
- ・ 税金はどうしてもなくてはならないものか
- ・ 税金をはらっている人たちの役に立っているのか
- ・ 私たちの身の回りで、税金によって作られた建物やできたものは何か
- ・ 消費税を上げる理由、メリット
- ・ 将来、日本で消費税が10%以上になることがあるか
- ・ 税の上がり下がりはどうやって決めているのか
- ・ 税はいつごろから納めるようになり、誰が思いついたのか
- ・ 税が始まったきっかけ
- ・ お金をどのようにすれば「税」と呼ばれるようになるのか
- ・ お金と税のちがいは
- ・ 税は全部でいくつあり、それぞれどのようなことを言うのか
- ・ 消費税はなぜ上がったり下がったりするのか

## 2 アンケート結果の考察

アンケートの結果から、本校の生徒たちは、税金の働きについて知っていると言った生徒は約62%である。税によって公共施設が建てられたり、公務員の給料になったりしていることが理解できている生徒も多い。しかし、知っている内容に誤りがある生徒も多い。税については、必要なものではあると答えている生徒もいるが、大多数の生徒があまりよいイメージをもっておらず批判的な意見をもっている生徒も多いことが分かった。また、消費税が、現在8%であるということを答えられなかった生徒がおり、1・3年生は正解率が8割に満たなかった。一方、税に関する疑問や質問は多く出されており、興味が高いことが分かった。

### 3 租税教室の実施

#### (1) 平成 27 年度

平成 27 年 12 月 8 日 (火)

場所: 屋久島町立中央中学校 多目的室

対象: 第 3 学年 (54 名)

講師: 種子島税務署 益田知晃 氏

講師紹介のあと、税の種類や納め方などについて学習させた。主に鹿児島県租税教育推進協議会が作成した『わたしたちの生活と税』の資料を使った講師の説明であった。その後質問を受け付け、答えていただいた。

感想を述べる場面では「税がないとみんなの給料がなくなる」と言い切った生徒がおり、まだまだ認識が甘い生徒が多いことと、租税教育を深めていく必要性を痛感した。



#### 平成 28 年度

ア 平成 28 年 5 月 20 日 (金)

場所: 屋久島町立中央中学校 体育館

対象: 全学年 (188 名)

講師: 種子島税務署 山影雄大 氏

全校生徒を対象にしたもので、まず税の種類等について説明していただき、その後に税金がなくなった DVD による仮想世界を体験することができた。国や県、屋久島町の財政状況にふれられる、より身近な話題であった。また、1 億円の大きさと重さを体験することができて、生徒たちも大変印象に残っていた様子であった。



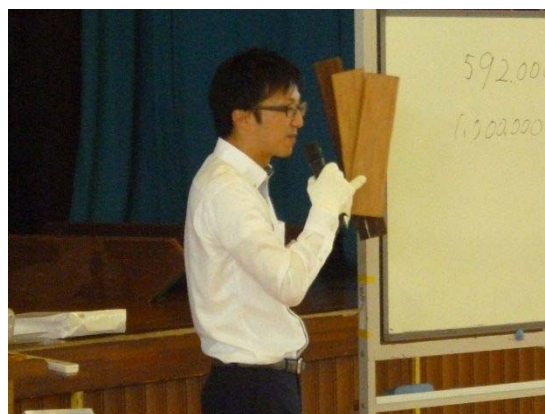
イ 平成 28 年 9 月 9 日 (金)

場所: 屋久島町立中央中学校 体育館

対象: 第 3 学年 (66 名)

講師: 種子島税務署 山影雄大 氏

3年生を対象にしたものであり、最初の屋久島の税金について説明してもらった。自主財源はわずか20%しかないことに驚いていたようであった。また屋久島では年貢として米ではなく屋久杉を納めていたことも説明を受けました。実際に納めていた屋久杉を手に取り、興味を深めていた。また、屋久杉を伐採するのに男7人で10日かかり、平木にするのに10人で10ヶ月かかったという話を聞き驚いていた。その後、消費税の申告書を実際に作成し、苦労しながらも完成を目指していた。



#### 4 租税教室後の税に関するアンケート実施

##### 租税教室を受けての感想

1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・租税教室を受けて改めて、税は必要だと実感しました。消費税などがないと、私たちの今の生活はできなくなりそうだと思います。今、税があるからこそ私たちは生きてこれるんだと分かりました。</li> <li>・租税教室を受けて私は税に関していろんなことが知れました。私も税なんかなくていいと思っていたけど租税教室をうけて、税の大切さが分かりました。</li> <li>・アニメをみて税金がないと世の中が不安定になるんだなと思いました。僕とはあまり関わりがないと思っていた税金が僕たちの生活を支えてくれているということを知ることができました。</li> <li>・小学校のときも「租税教室」をしたけど、その時より詳しく書いてあって、しかも分かりやすかった。国民が払う税金は本当に大切なんだなと思った。</li> <li>・私は税がなくなったらいいのと思ったことがあります。けれど話を聞いたり、DVD をみたりして、税がないと大変なことになって、社会や環境がくずれていくということを知ることができました。なので税を納めることで地球を守っていくんだということが分かりました。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税を納める理由が改めて理解できたことにより、何歳になっても税はちゃんと納めようと思った。</li> <li>・租税教室で私は日本の税は安いということを知ってビックリしました。私の中では高い方だと思っていたので改めなおすことができました。</li> <li>・わかりやすく説明してもらったので、すごく頭にはいりました。1億円の重さも分かったので楽しい授業でした。</li> <li>・僕たちのために税についてくわしくいろいろな事を教えてもらいました。DVD をみて僕もこんな税はいらないと思うときがあったので、税がなかったら世の中はあんなになってしまうという事も分かり、税金というものは、とても大切な役割をもっていることがわかりました。</li> <li>・アニメを見て税金は大切だと思った。でも本当に必要な所で使われているか疑問だ。例えば政治家が行かなくてもいい出張などで税金を使うなら納めたいと思わない。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っているようで知らないことばかりだった。正直「税なんてなくなればいいのに」とか思っていたけど「あっ、税ってこんな大事な役割があるんだな」と思うようになった。考え方が変わって見える世界も少しだけ変わった。</li> <li>・税のはたらきやしくみなど、知らないことが多かった。消費税が上がって、嫌な気持ちになる人がいるけど、大切な役割を果たしていることが分かった。</li> <li>・僕はあまり税のことが分かっていなくて、なくてもいいのかなと思っていたけど、租税教室を受けて税はとても必要なんだなあと思いました。税があるのが当</li> </ul>

たり前だと思っていたのでもう少し税について意識してみたいです。

- ・税金がなかったら、どんなに大変か、税金の必要性を改めて感じる事ができました。私はいろいろある税金の中で名前を言えるのは「消費税」だけだったけど、今回の租税教室でたくさん種類があることに驚きました。私たちの生活の中にも、たくさん税金が使われていることに日頃から感謝したいと思います。
- ・今まで僕は税のことについて全く知らなかったのですが租税教室の中でのDVDをみて、税はお金を取るだけではなく、国の安全のためにも使われているということを知りました。
- ・税が私たちの生活にとっても関わりが深く、そして役に立っているのだと知った。これまであまり気にしていなかったけれど、税がないと私たちの暮らしが成り立たないことを知り、大切にしたいと思った。納税の義務をしっかりと果たせる大人になりたい。

#### 5 アンケート結果の考察

アンケート(感想)を見ると、すべての学年において否定的だった考え方が前向きに変わっている生徒が多かった。税金は私たちの生活において欠かせないものであり、非常に大切なものであるという認識を高めた生徒も多かった。1年生においては、税の大切さを実感している感想が多かった。2年生でも大切さを実感するとともに正しく使ってほしいという要望もあったのが印象に残った。3年生では、税をしっかりと納めていくという将来に向けての感想が見受けられた。また、屋久杉を年貢(税)として納めていたことを知り、屋久島の良さや自然を生かした税であるという感想が多い中、大事な自然をしっかりと守ってほしいという郷土愛に満ちた感想もありました。

## 6 各教科での取組

### (1) 社会科

#### ア 社会科の指導内容と税との関連

すべての教科の中で、租税教育との関わりが最も深いとされる教科は、社会科である。社会科学学習において租税教育を意識した授業を展開していくことは、公民的資質の基礎を養うという観点からも重要であると考え。そこで、税に関する単元と学習内容を抽出し、租税教育を意識した授業展開に心がける

分野	時期	題材名	目標
歴史	1年 1学期	奈良時代の人々の暮らし	・班田収受の法についてまとめ、奈良時代の人々の生活の実態を理解する。
	2年 3学期	維新の三大改革 地租改正	・新政府が行った富国強兵政策の具体的な内容を理解する。 ・税制の変化によって国家財政の基盤が安定化し、近代化につながったことに気付かせる。
公民	3年 2学期	人権保障を確かなものに	・基本的人権を守るために、わたしたちはどんな努力が必要か、具体的な事例を通して理解する。 ・国民の三大義務について理解させるとともに、納税が義務になっている理由に気付かせる。
	3年 2学期	地方分権と住民参加	・地方自治体の仕事と財源の現状について理解させ、租税の重要性に気付かせる。 ・今の政治の課題に関心を持ち、今後自分がどのように地域社会や政治に関わっていくかを考える。
	3年 2学期	わたしたちと日本の政治	・身近な生活との関わりの中で、地方分権の重要性について理解する。
	3年 2学期	わたしたちと政府の仕事と租税	・現代政治の課題にはどのようなものがあるか話し合う。 ・身近な事例を通して、社会資本の整備を国や地方公共団体がやっていることに気付き、政府が果たしている経済的な役割を考える。 ・税について関心を持ち、租税の意義や役割について理解する。
	3年 2学期	財政のはたらき	・歳入、歳出における内容を具体的に学習し、財政について関心を持つ。 ・財政の働きを理解するとともに、財政の課題について考える。
	3年	社会保障と国民	・社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制



	2学期	の福祉	度の概略を理解する。 ・少子高齢社会の現状とこれからの社会保障のあり方について考える。
--	-----	-----	--

イ 租税関連の指導案と授業後の生徒の感想

第1学年 平成28年9月実施

1 単元名 第2節 古代国家の歩みと東アジア世界 (第2章 古代までの日本)

2 本時の実際 (4/9)

(1) 主題 奈良時代の人々の暮らし

(2) 本時の目標

ア 班田収受の法についてまとめ、奈良時代の人々の生活の実態を理解する。

イ 律令制度の基盤である公地公民がくずれ始めた理由を考える。

(3) 学習過程

学習過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点(○)と評価(◎)
導入	10分	1 前時の復習をする。  2 教科書資料の「貴族の食事」と「農民の食事」から身分により暮らしに大きな違いがあることを考えさせ、発表させる。	○ 小テストを行い、前時までの復習をさせる。  ○ 資料から、貴族と一般の人々との暮らしの違いを考えさせ、その理由を発表させると同時に、多様な意見を出させる。
展開	33分	3 本時の学習課題を把握する。	
		律令国家のもとで、人々はどのような暮らしをしていたのだろう	
		4 「班田収受の法」とは何かについて、教科書を読み解き、発表する。 5 奈良時代の一般の人々の負担とはどのようなものがあったのか、教科書を読み解き、発表する。 6 重い負担からのがれるためにどのようなことをしたのか、教科書を読み解き、発表する。 7 墾田永年私財法が出された時	○ 資料から、戸籍の記載事項に着目させる。  ◎ 古代の人々は戸籍に登録され、6歳以上の人々には口分田が与えられたことを理解できたか。  ◎ 雑徭や兵役の実態をつかみ、身分や年齢、性別による税負担の違いを理解できたか。  ○ 墾田永年私財法がどのよう

		代背景を考えさせ、なぜ公地 公民の制度が崩れていったの か、発表させる。	なものだったのか理解させ、 重い負担からのがれようと、 人々がとった行動に着目させ せる。
終末	7分	8 奈良時代の人々の暮らしを振 り返ってまとめる。	○ 奈良時代の人々の重い税 負担や公地公民の制度が崩 れていったことを具体的に捉 えることができたか。
朝廷から様々な重い負担を課せられ、苦しい生活を強いられていた。			
		9 次時の予告を聞く。	○ 次時の学習内容について 理解させる。

(4) 評価

- ア 班田収受の法についてまとめ、奈良時代の人々の生活の実態を理解できたか。
- イ 律令制度の基盤である公地公民の制度がくずれ始めた理由を考えることができたか。

[生徒の感想]

- ・ 奈良時代の人たちは重い税や、労役があり大変だと思った。
- ・ 貴族の人たちは、農民など納めた税でぜいたくをされていてずるいと思った。
- ・ 昔に比べると、今の税金は軽いのかな～と思った。

(2) 音楽科

音楽において、曲を創作する中で税を取り扱った授業に取り組み、税に対する意識を高めた。

(実践例)

④ 本時の実践			
(1) 目標 言葉の抑揚を意識しながら、前時のリズムを活用して旋律の音の起伏を創意工夫しよう。			
(2) 展開			
過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点(○)・評価(◎)・中央中スタイルとこだわりの視点(※)
導 入	① グループで前時に創作したリズムを確認する。	5	※各段でのリズムの対比で、詩のシラブルとの関わり等が活かされているか確認する。(言語活動の充実を図る)
	②めあての確認 「言葉の抑揚を意識しながら、前時のリズムを活用して旋律の音の起伏を創意工夫しよう。」	2	※学習目標の提示
表 現 回	③グループで作成する「作品名」を決める。	3	
	④詩の抑揚を線で表し、それを生かした旋律を個人で考える。	15	○旋律を作る際に、作品名に込めたイメージから離れないように注意するように促す。 ◎詩と旋律の結びつきを理解することに意欲的に取り組もうとしているか。(音楽への関心・意欲・態度)
	⑤各個人が作った作品を相互に、確認しながらグループで一つの作品としてまとめる。	10	※まとめる際には発案時に創作したパソコンとは別の物を使用するように意識する。(理解を助ける教材・教具の活用)
終 末	⑥グループで作った作品を、相互に鑑賞する。	10	◎他の作品の良さを感じ取り、自分の作品をより良いものにしていこうと主体的に取り組もうとしているか。(音楽への関心・意欲・態度) ○時間が足りず途中までのグループも発表させる。
	⑦本時の反省をする	5	○ワークシートに感じた他グループの良さをまとめさせる。 ※ワークシートで、本時の感想と自己評価を行う。(まとめ・定着の時間の確保) ◎自分たちの作品の改善点をまとめることができるか。(音楽への関心・意欲・態度) ○鑑賞の感想をグループでまとめ、自分たちの作品に活かすことができるポイントを整理する。

## 7 生徒の作品

### (1) 平成 27 年度「税に関する作品」入選者作品

作文：(種子屋久納税貯蓄組合連合会会長賞受賞作品)

#### 「消費税への思い」

買い物をするとき、何気なく支払っているお金。当たり前はその対価に対する支払い。「いつも、もっと安かったら、もっといっぱい買えるのに。」と思う気持ちがどこかにある。そのとき、ちょっと引かかる消費税。何気なく支払っていた消費税について疑問を持った私は、この夏、消費税について少し調べてみた。そこで、消費税のしくみや使われ方などについて調べ、考えた。

私は、よくお店で買い物をする。お店に支払う代金には、消費税が含まれている。とても身近な税金である。消費税8パーセントはお店から税務署に申告し、納める。8パーセントのうち6.3パーセントが国の収入、1.7パーセントが地方消費税の都道府県の収入になり、その半分が市町村に人口などをもとにして分配されるしくみである。

消費税の約8割は、年金や老人医療、介護などに使われている。私にも祖父や祖母がいる。

安心して暮らせるためには、非常に大切な福祉予算である。私たちが年をとっても今のように安心な世の中になればと常に思う。

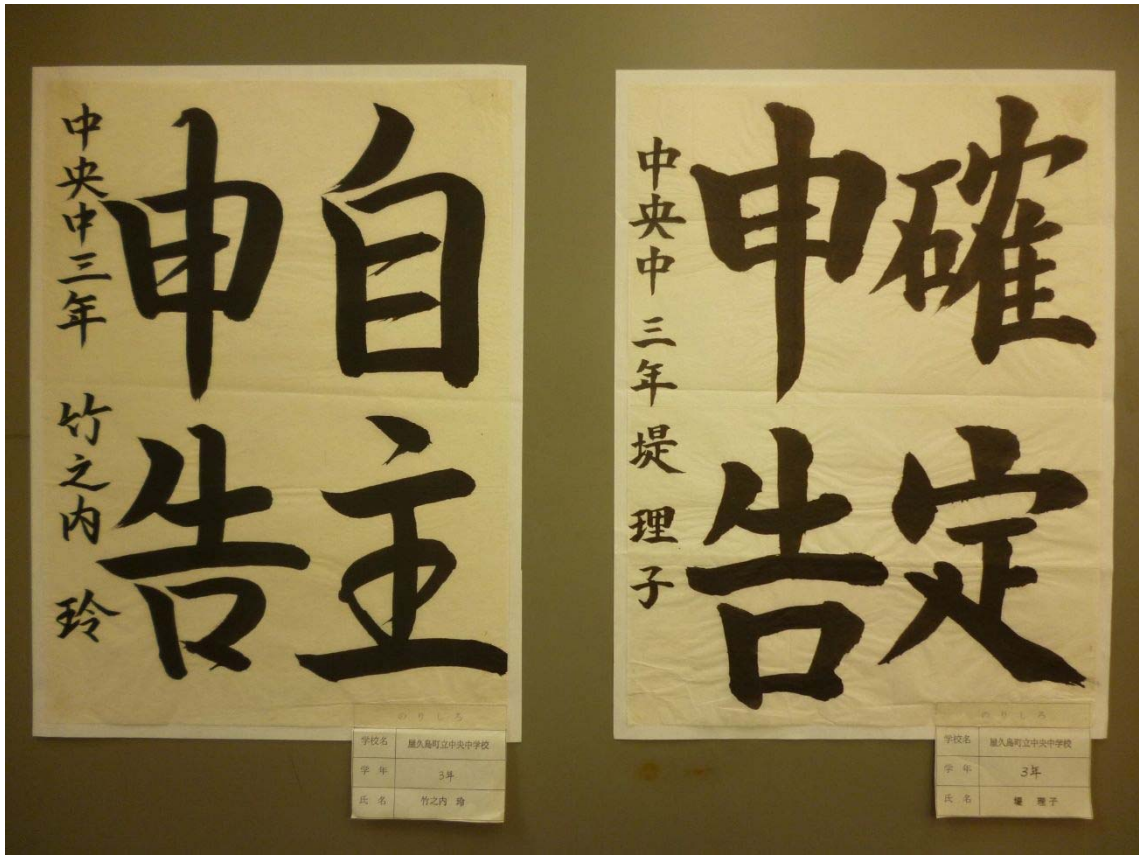
2014年の4月1日に、消費税が5パーセントから8パーセントに変わったとき、「消費税を引き上げたのはなぜだろう。」と疑問を持った。そこで、調べて見ると、これからの少子高齢化を見据えて、社会保障財源のために所得税や法人税の引き上げを行えば、現役世代に負担が集中してしまうので、高齢者を含めて国民全体で広く負担する消費税が1番良いと考えられたそうだ。消費税の引き上げにも深い理由があるのだということが分かった。

他にも、経済の発展のため、教育の向上のために、公共団体はお互いに協力し、仕事を進めなければならないと思う。社会保障の充実、環境、整備の充実などのたくさんの充実のために多額の予備を充てている。だからこそよく話し合い、国民全員が納得できる税金の使い方を考える必要があると思う。

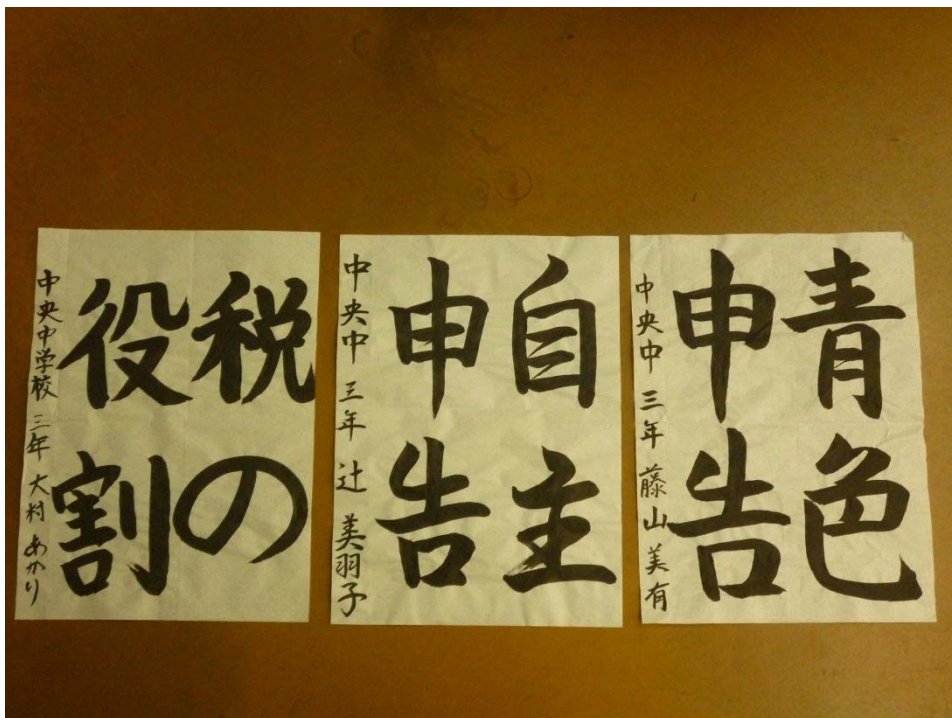
私たちが納めた税金は、国民の安全を守る警察や消防、道路や水道の整備、ゴミの収集や処理といった「国民に役立つ公的サービス」や、年金、医療、福祉、教育などの「社会での助け合いのための活動」などに使われているといことを改めて知ることができた。

これからも、私たちが毎日、安心して暮らせるようにこれからも税金を使ってほしいと考える。私たちの暮らしをより良くするために費用がかかる。その費用を、私たちみんなで「税金」という形で負担することは、私たちが社旗の一員として生活していくためには、欠かせない大切な責任だと思う。そして、みんなで税金を納めることは、国を維持し、発展していくために欠かせないことだということを理解し、この社会を支えていきたい。

書道:(種子島税務署長賞 種子屋久納税貯蓄組合連合会会長賞受賞作品)



(2) 平成 28 年度 応募作品(一部)



#### IV 研究のまとめ

##### 1 研究の成果

この2年間、社会科の授業を中心として取り組みながら全校で、租税教育に取り組むことができたと考えている。「税金は高い」、「税金はどうして払わないといけないのか」という生徒の疑問に対して、「税はどのように使われているのか」、「税がないと自分たちの生活にどんな影響がでるのか」という社会のしくみについて目を向けさせることができた。

また、社会科だけではなく、他教科・領域と連携することで、広く税金について考えさせるきっかけをつくることができたと思う。今回の租税教育で、生徒から税についての興味・関心を引き出すことができたことは、大きな成果である。

##### 2 今後の課題

今回の租税教育への取組によって、税についての知識や興味・関心は高まったが、継続していくことが非常に大切である。税に関する知識を広げていくためには、さらに他教科や関係機関との連携が重要である。また今回あまり進めることができなかった家庭や地域への啓発活動や連携の強化も充実させる必要があると考える。

##### 3 おわりに

2年間にわたり、租税教育研究委嘱校として「租税教育を通して、税に関する興味・関心を高めるとともに、正しい知識や理解を深め、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成する。」をテーマに研究実践に取り組んできた。今回の租税教育が、少しでも将来の日本を担う子どもたちに、正しい税の知識と理解を深められるきっかけになったことは幸いである。

最後に、このような機会を与えていただいた鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、多大な協力と御指導をいただいた種子島税務署、関係諸機関の方々に、心から厚くお礼を申し上げます。